



台地に広がる棚田

郷土を開く「棚田のヒミツ」



2022年4月5日

ムラコウ

郷土を開く

■地いき（郷土ともいいます）には、たくさんの電柱や道路、ガス、上水道に下水道、そして田畑といわれるものがあります。これらのおかげで、わたしたちの生活は成り立っています。1学期に勉強してきた通りですね。とても便利でかいてき、そして安全な生活がおくれていますよね。

■しかし、これらは一晩でできたものではありません。昔から多くの人々（先人といいます）の知恵と努力によって、つくられてきたものです。それらの上によりよくきずいていった結果が「今」の生活なわけです。

■ここでは、先人がどのような努力をして、郷土を切り開いていったのか、ということについて学習していきます。皆さんの近くにも、神社・仏閣があったり、石碑があったりすると思います。それらをひもとけば、先人の生きた足跡が見つかることでしょう。

【課題】

★地域に残っている史跡等を見つけて、先人の働き・生きた足跡を学習していきましょう。

棚田のヒミツ

1. 棚田って、なーに？

皆さんは、「棚田」って、聞いたことがありますか。

段々畑は聞いたことがあるでしょう。階段のようになっている畑ですね。この畑を水田にした場合を、「棚田」と言っています。

下が、棚田の写真です。〈写真1：棚田〉



では、この写真からわかることを箇条書きにしてみましよう（p3のコード票を参考にしてください）。

- 1)
- 2)
- 3)

ここでは、棚田について学習していきましょう。あなたは農家の人だとします。どんなことがたいへんでしょうか。

郷土を開く

■山都町って、どんな所？

人口：16700人

面積：545km²

旧矢部町と旧蘇陽町が合併（ペ
い）してできた町です。

9月の八朔（旧暦8月1日）の日
に「八朔祭」（はっさくさい）とい
う祭りがあって大造り物がねり歩
きます。農家の人をねぎらった祭り
です。



<図1：山都町の場所>

【課題の立て方】

★5W1Hを使って作
りましょう。

「いつ」「どこで」「だ
れが」「何を」「なぜ」
「どのように」

(例)・いつ作られたのかな？

- ・どこの写真かな？
- ・どうやって作ったのかな？
- ・なぜ作ったのかな？
- ・・・・(p4を参考に)

棚田のヒミツ

2. 棚田って、どんなの？

写真1の棚田は、熊本県東部の山都町にあるものです。
棚田には、どんな特色があるのでしょうか。



「棚田ってさ、仕事をするのがきつくないのかな？」



「そうよね、これ、農機具が入りづらいよね。全部、
手仕事になるのかな？」



「坂になっているから、農作業もきついし、時間も
かかるよね。」



「それよりね、水田って、水だよ。水はどうする
のかな？」

次の写真は、棚田を近くから写したものです。

<写真2：棚田の1枚>

<写真3：棚田のアップ①>



<写真4：棚田のアップ②>

<写真5：棚田のアップ③>

棚田のどんなことについて、調べてみたいですか。

<図2：写真の見方を鍛えよう>

写真の見方—写真解読コード

主役	主役	背景
主役	写真の情報	対役
背景	対役	対役

【コード票の使い方】

- 1) 物語には、例えば桃太郎という主役と、鬼という対役がいますね。写真もそのように考えてよみてみましょう。
- 2) まずは中央に、「棚田」(山都町)の写真、と書きましょう。
- 3) 次に、主役と対役に分けてみましょう。主役は棚田ですよね。対役は米にしましょうか。主役で気付いたことを左上の3マスに、対役で気付いたことを右下3マスに書いてみましょう。
- 4) そして、右上と左下の2マスに、背景で気付いたことを書いてみましょう。この写真では、周りの風景が背景ということになりますね。
- 5) たくさんあった場合は、1マスに1個といわず、たくさん書いてみてくださいね。どんなに小さいことでもかまいません。意外とそんな中に、「ピカッ」と光るものがあるものですよ。
- 6) p2の棚田に関する4枚の写真も参考にしてみるといいですね。

<図 3 : 課題を作成する力をつけよう>

課題作成コード

5W1Hで始まる?を作ろう!

<u>いつ</u> ? !	<u>どこで</u> ? !	<u>だれが</u> ? !
<u>何を</u> ? !	<u>テーマ:</u> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div>	<u>どのように・どんな</u> ? !
<u>なぜ</u> ? !	<u>どれくらい(数値)</u> ? !	<u>その他</u> ? !

【コード票の使い方】

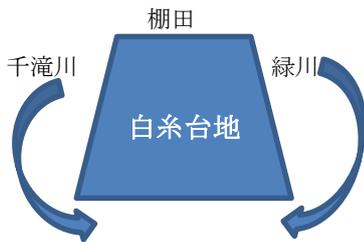
- 1) 中央のテーマのところに、「棚田について調べてみたいこと」と書き入れましょう。
- 2) 前のページまでで、棚田の写真などを見て気付きを記入してきました。それらを生かしながら、5W1Hにしたがって、写真に聞いてみたいことを書いていきましょう。
- 3) 「?」は聞いてみたいこと、「!」はびっくりしたことなどを記入するのですが、全てを書く必要はありません。
- 4) たんじゅんに、「どうやって棚田を作ったのだろうか。」でいいのです。聞いてみたいことをどんどん書いていきましょう。多いほど、多くのことを吸収できますよ!

▼[白糸台地に住んでいた人々の暮らし \(江戸時代前半まで\)](#)・・・雨水をためて、飲み水にしたり、農業用水にしたりしていたようです。雨が降らないと、飢饉となり、ひさんな生活をせざるをえませんでした。しかも、当時の暮らしは税金たるお米が大事な時代です。お米をつくるには、大量の水がひつようですよね。

郷土を開く

■白糸台地って、どんな所？

「台地」とは、読んで字のごとく、台形の形をした土地ということになります。この地は「滝」が多いのですが、地名がそれを意味しているのかもしれませんがね。右の写真からも想像できますね。



<図 2：白糸台地の模式図>

■立体モデルとは、

地図だけでは、実際の高さとか形がわかりづらいですよ。そこで、土地の同じ高さを線で結んだものを等高線というのですが、同じ等高線（高さ）の土地を切り取って段ボールなどにはりつけて切り取ります。それを順に重ねていくと、立体化されます。地図の3Dといえますね。等高線の幅が狭いと急な坂になっているということです。ぎやくに幅が広いと、ゆるやかな坂になっているということです。



<図 3：立体モデルの模式図>

■棚田をグーグルマップで見よう。

<https://maps.google.co.jp/>

きれいにつくられているのがわかりますよ。

棚田のヒミツ

3. 棚田の水はどこから？



<写真 6：棚田付近の井手> <写真 7：白糸台地>



「田って、水があるでしょう。水はどうしているのかな？」



「この井手からではないの？」

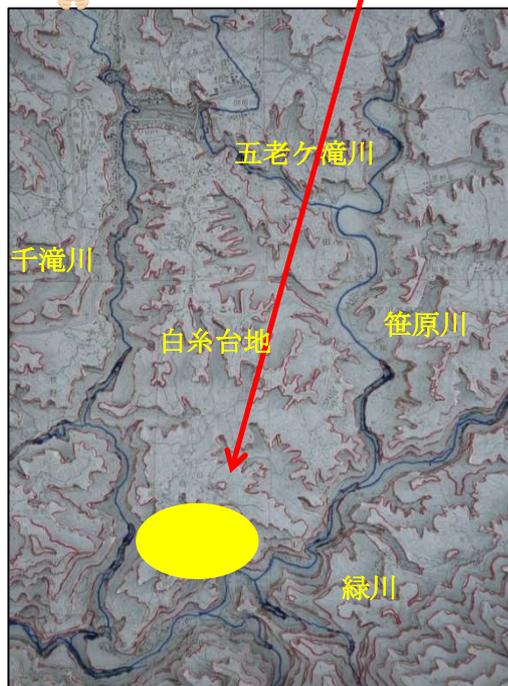


「じゃあさ、この井手はどこからきているの？」



「川からに決まっているじゃない！！」

<写真 8：白糸台地の立体モデル>



この棚田は、白糸台地という所にあります。白糸台地が4つの川で囲まれているのがわかるでしょう。しかも、台地なので、川は30m以上（最大で150m）の谷になっているのです。

あなただったら、ポンプのない時代に、田にどうやって水を引きますか。この写真をよく見て考えてください。

郷土を開く

■通潤橋を作ってみよう！



<写真 11：通潤橋の模型>

アーチがポイントですね。要石（かなめいし）は最後ですよ！



■コーンビーフの缶でもできますので、7個ほど使って挑戦してみましょう。

■保之助って、どんな人？

保之助は、この地をおさめる役目の「手永」でした。江戸時代は、熊本県のことを肥後藩と呼んでいました。

<図 4：当時の県>



この地をまとめる惣庄屋だった保之助が手永となり、各村を見て回り、中でも水の少ない白糸台地の人々の苦勞を知っていました。どうかして、水をひっぱって生活を楽にしてあげたいと考えたのでした。

★保之助は、白糸台地周辺のどこに橋をかけたのでしょうか。

棚田のヒミツ

4. 通潤橋って、どんな橋？



「この前、家の人から、こんな写真を見せてくれたよ。通潤橋というんだって。」

<写真 8：通潤橋>

<写真 9：橋の上>



通潤橋って、どんな橋でしょう。写真からわかることを箇条書きにしてみましょう。

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)

<写真 10：布田保之助の銅像>



「ここ、行ったことあるわ。確か、白糸台地にかかっているらしいわよ。」



「ということは、例の棚田の水とも関係があるのかな？」



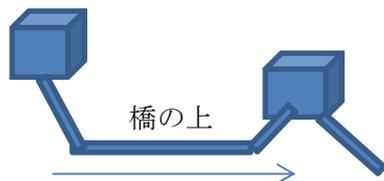
「夏休み、ここに行ってきたんだ。布田保之助という人がつくったらしいよ。それにしても、どこに橋をかけたのら

う？」

郷土を開く

■サイホンの原理とは？

浜町———白糸



<図 5：サイホンの原理>

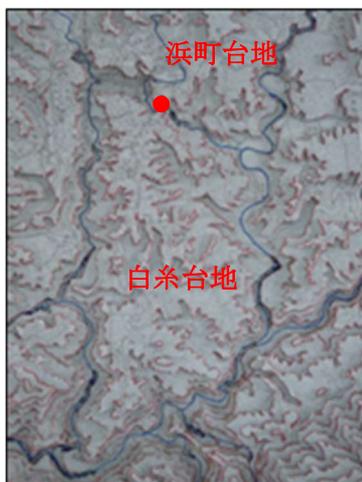
水は同じ高さを保とうとする性質があります。そこで、浜町側を高くしておいて、水を流し込むわけです。すると、いきおいよく白糸台地側へ流れていくわけです。



<写真 14：最後の地：津留>

現在、保之助の墓は熊本市の万日山のみもとにあります。

■通潤橋はどこにある？



<写真 15：白糸台地立体モデル>

赤いポイントのところにあります。布田保之助は、浜町台地と白糸台地の一番谷が浅く、幅がせまい、この場所に橋をかけたのでした。

棚田のヒミツ

5. 布田保之助って、どんな人？

次の写真を見てください。

<写真 12：放水シーン>

<写真 13：改修中の橋>



通潤橋から水が出ていますね。つまり、通潤橋は人が通る橋ではなく、水を白糸台地に通す橋だったのです。右の写真から、中に 3 本の管が通っているのがわかりますよね。この中を水がサイホンの原理で送られていったのです。

この橋をつくったのが、布田保之助です。どんな人だったか、年表を読み取ってみましょう。

<資料 1：布田保之助の一生>

1801（0歳）保之助、肥後の矢部に生まれる

1803（2歳）年貢（税）率が46%から38%へ下がり、農民の生産意欲が高まる

1810（9歳）父親が亡くなる

1832（31歳）石の眼鏡橋を初めてつくる

1833（32歳）惣庄屋になる。

1852（51歳）石橋を作って、水を引く計画を立てる

1854（53歳）種山石工の技術によって、通潤橋完成

1855（54歳）地震（安政の大地震）があったが、橋は壊れなかった

1857（56歳）通潤用水が全て完成する

1862（61歳）惣庄屋をやめる

1867（66歳）藩より偉業をたたえられる

1873（71歳）明治政府より天杯、2ヶ月後に津留で亡くなる

郷土を開く

■江戸時代とは、

1603年～1686年の約260年間をいいます。明治時代の前の近世という時代になります。

■布田保之助の実験！

通潤橋史料館の石山さんが教えてくださいました。実は、布田保之助は、橋を作るにあたって、めんみつな**通水実験**を繰り返していたようです。それが次の写真です。



<写真 18：残された実験跡>

1852年3月13日に通水実験に成功したそうです。聖橋の近くにあります。

この成功によって、白糸台地は前からあった下井手と、新しくできた通潤橋から引いた上井手で、豊かになっていったということでした。

■しっくい (漆喰) とは、

石と石をつなぐ物です。



<写真 19：漆喰>

詳しくは史料館で調べてみましょう。

棚田のヒミツ

6. どうやって水を引いてきた？

通潤橋によって、白糸台地へ水がひかれたのですが、この水のことを「通潤用水」とよんでいます。この水、どこから引いてきたのでしょうか。

また、金ぞくパイプなどのなかった江戸時代に、どうやって水を通したのでしょうか（写真 17）。この石管をどうやってつなげていったのでしょうか。そもそも石はどこから持ってきたのでしょうか。また、どんな人々がこの工事をしたのでしょうか。ぎもんは、深まるばかりですね。

<写真 16：通潤橋下の五老ヶ滝川><写真 17：通潤橋内の石管>



通潤用水には、2つありました。通潤橋で引いた水を上井手とよんでいます。左の写真を見てください。通潤橋下の川に、水を引いているような箇所がありますね。これを下井手とよんでいて、地下で運ばれた用水になります。この2つの用水、どこをどう流れているのでしょうか。

多くの課題が出てきましたね。他にも、橋の大きさ、橋の作り方、お金は？、材料は？などもよくわかりませんよね。そこで、現地に行って調べてみましょう。ここで、皆さんが調べてみたいことを整理してみましょう。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.

郷土を開く

■見学の仕方

- 1) 屋外なので、安全に十分注意しましょう。(特に、通潤橋の橋の上)
- 2) 地図や方位磁針をもって、場所を確かめながら見学しましょう。
- 3) デジタルカメラなどを使って現地の写真をとりましょう。
- 4) 気づいたことや不思議に思ったことは、必ずメモしましょう。
- 5) ガイドの方々の指示を守りましょう。

■ナビゲーター

次の2人の方が中心となって、ガイドをしていただきます。しっかりと話を聞いていきましょう。

<写真 20: 東陽石匠館の館長さん>



<写真 21: 通潤橋史料館の館長さん>



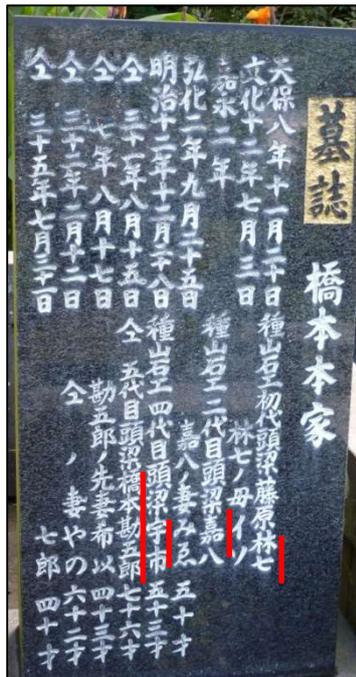
■他にもボランティアガイドの方がおられます。

棚田のヒミツ

7. 現地見学に行こう！！

通潤橋を見学に行きましょう。また、通潤橋を工事した石工の人たちの資料館を訪ねましょう。今までの課題が解決すると思います。

また、現地見学だけでは、調べることが不可能かもしれませんので、参考になる写真や資料をここにのせておきます。<写真 22: 橋本家の墓碑><写真 23: 用水の取水口>



<写真 24: 用水の調整口>



<左上: 写真 25: 円形分水>

<右上: 写真 26: 布田神社>

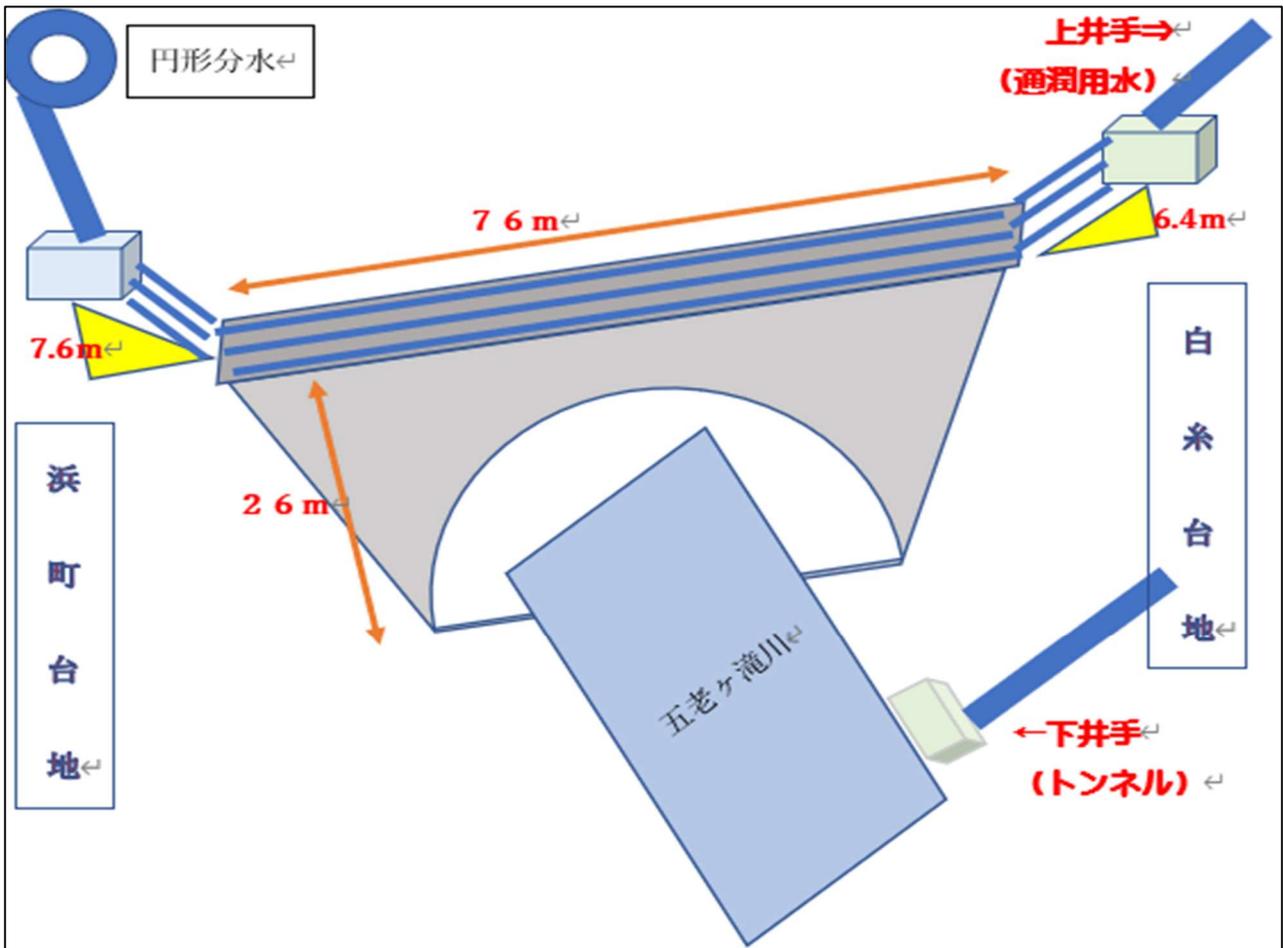
<左: 写真 27: 通潤用水の浜町台地側>



「楽しそう！
早く行きたい！」



「よく作ってあるなー」



<資料 2 : 通潤用水の流れ>

【通潤用水はかんがい遺産に登録された！！】

- まず、用水とは、人々が生活や農業などのために使う水や水路のことをいいます。用水を開くには、めんみつな計画と地域の人々の協力が必要になります。
- この通潤用水が「国際かんがい排水委員会」から遺産として登録されました。熊本日日新聞の平成 26 年（2014 年）9 月 17 日の新聞に紹介されています。全国では、9 施設しかありません。大切にしていきたいものですね。
- この通潤用水ですが、幹線水路は約 15 k m、支線は 29 路線あって、合計 35 k m もありますよ。

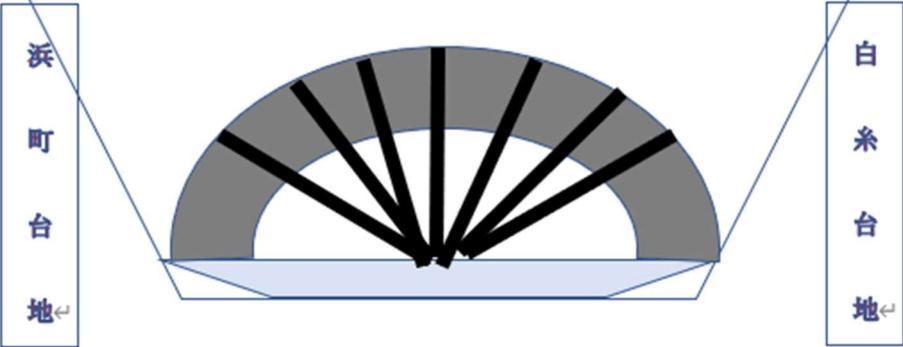
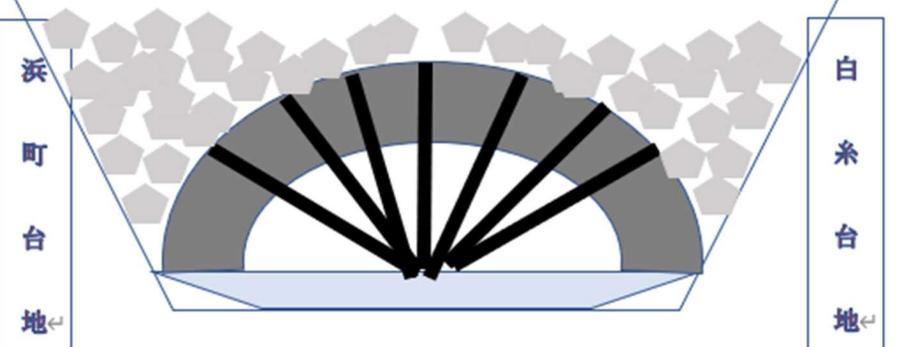
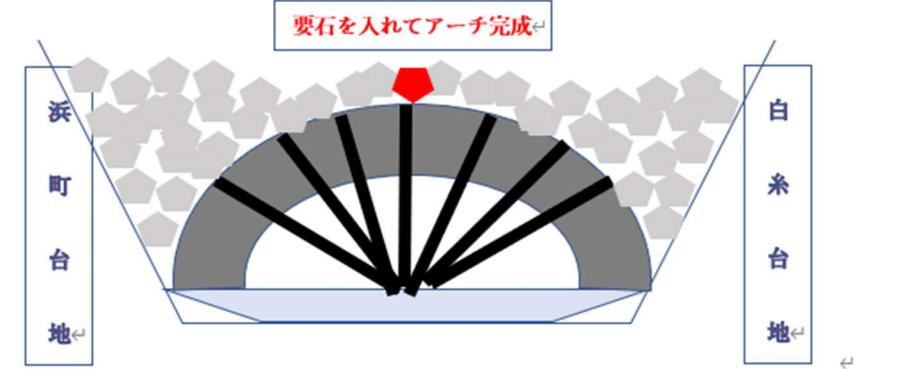
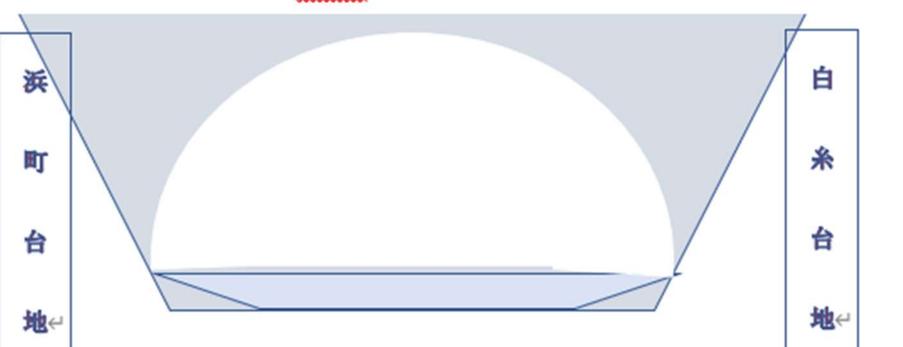


「総延長、50 k m にもなるんだって！」

「石の総数は、約 6000 個にもなるんだって！」

「石管と石管をつなぐ接着剤を漆喰（しっくい）と言うんだって。材料は、松葉の煮汁・粘土・砂・石灰・貝殻・油等を混ぜ合わせたそうよ。」

<資料4：橋の作り方>

<p>1. <u>台わく</u>を木材で組み立てる</p> 	<p>●白糸台地はを囲む河川で、谷が一番狭くて、高さが当時の技術で可能だったのが、現在地でした。まずは、木材で土台を作っていました。</p>
<p>2. 輪石を積む</p> 	<p>●その後、谷とアーチ型の木工の合間に石を敷き詰めていきました。熊本城の石垣を参考にしています。</p>
<p>3. 上部に通水管を並べて完成となる</p> <p>要石を入れてアーチ完成</p>  <p>もちろん、石は隙間がないように、しきつめます。最後に要石を入れて完成となります。</p>	<p>●最後に、要石をあてがって、アーチとしての態勢を整えて、強度を増します。その上に3本の通水管を設置していきます。</p>
<p>4. 最後に<u>台わく</u>を取り除いて通潤橋の完成</p> 	<p>●最後に、木工部分を取り除いて通潤橋が完成するわけです。</p>

<写真 28 : 石の切り出し場所>



★資料館を訪ねて、メモをしていきましょう。

A large, empty rounded rectangular box with a black border, intended for taking notes.

郷土を開く

■資金はどうしたの？

石匠館の上塚さんにお聞きしました。

橋を建てるには、次のことが必要です。

- ・政治（手永の藩とのかけあい）
- ・資金（橋をたてるお金）
- ・大工・石工の技術と労働力
- ・資材（阿蘇山の溶岩）

1803年に年貢（税金）がゆるくなって、農民が少し楽になりました。矢部の手永にあった資金や寄付金が約380貫、藩からの借金が約330貫でした。合計約710貫で橋ができました。現代のお金に換算すると、約8億円（

781000000円）です！

（江戸時代の物価表：自動換算）

<http://www.teiocollection.com/kan-san.htm>

・一説には15億円とも26億円とも言われています。

【メモの取り方】

- 1) 数値を聞きのがさないこと。
- 2) キーワードのみを並べていくようにすること。
- 3) なるべく箇条書きにしていくこと。

■右の写真の出所：石＝石匠館・史＝史料館・橋上＝橋上の資料館

棚田のヒミツ

8. 体感しよう？

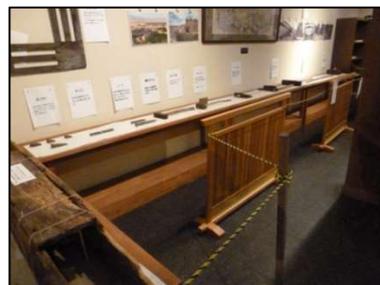
資料館には、いろいろなものが準備されております。それらをしっかりと体感していきましょう。



<写真 29：アーチの模型（石）> <写真 30：石の切り出し（石）>



<写真 31：工事用の道具（石）> <写真 32：漆喰を作る（橋上）>



<写真 33：「仕法書等の古文書の数々」> <写真 34：道具の数々>



<写真 35：工事の再現ジオラマ> <写真 36：通潤用水模型>
(下4枚は史)

郷土を開く

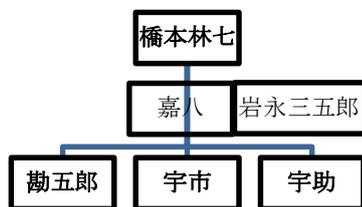
■八代市東陽町とは？

合併前の旧東陽村のことで、ショウウガが特産品です。ここでは、棚田という、水田ではなく、何とショウウガなのです。びっくりですね。ここに石匠館という資料館があって、橋を建てた石工の人たちのことがよくわかるようになっています。



<写真 37：石匠館>

■種山石工のつながり



<図 6：橋本家のつながり>

現在、橋本家には、勘五郎のひ孫にあたる方（88 歳）が元気です。ごさされております。



<写真 38-1：熊本市新町にある明八橋>

棚田のヒミツ

9. 種山石工とはどんな集団なの？

通潤橋の工事を中心となって受け持った、種山石工とは、どんな集団なのでしょう。

熊本日日新聞（平成 26 年 10 月 20 日）に「石工養成講座 4 年目 石橋修復で実績」という記事がのせられました。それによると、種山石工について、次のようなことが書いてありました。

- ・東陽町周辺で活躍した石材を利用した職人集団
- ・江戸末期から昭和初期に九州を中心に石橋をかける
- ・県内では緑川流域を中心に橋をかけていった

この石工集団の技術を後世に伝えるために、石工養成講座が開かれているという内容でした。

種山石工とは、八代郡種山手永に住んでいた石組み集団のことです。通潤橋の石工棟梁（とうりょう）は、宇市でした。勘五郎は副棟梁でした。

現在、種山石工の最後の一人と言われているのが、竹部光春氏です。勘五郎ゆかりの師匠に弟子入りして、現在は後進の育成に力を入れておられます。そのことが、上の記事になっております。

種山石工が建てた橋は、たくさんあります。霊台橋、明八橋、明十橋、江戸橋、皇居二重橋などです。

<写真 38-2：霊台橋>



郷土を開く

■円形分水について

これは、通潤橋の時代からずっとさかのぼって、昭和 31 年(1956 年)にできました。水争いがあったからです。そこで、通潤橋方面に 8 割、野尻・笹原方面へ 2 割の水を田畑の面積に応じて分配できるように、円形分水が作られました。



<写真 43：円形分水（6km 先）から届いた水＝通潤橋水だめ前>

<図 7：勾配率>

何とこうばいりつは、1000 分の 1 だそうです。



これだけの測量術があったというにはおどろかざるをえませんね！ なお、ここから橋まで、水は 1 時間 47 分かけて到達します。

■堰（せき）は、現代でも受け継がれております。白川など、多くの河川で利用されています。

<写真 44：白川薄場橋下の堰>

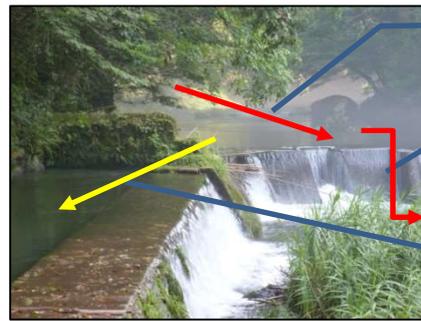


棚田のヒミツ

10. どうやって笹原川の水を取水した？

ここで、1 つだけ、6km 先の笹原川の水をどうやって引いてきたのかを考えてみましょう。

次の写真を見て下さい。<写真 39：取水口>



笹原川（上流から下流へ）

堰をもうけて水をため、あふれた水は再度、笹原川へ

たまった水を通潤橋へみちびく

しかし、このままでは、大雨の時、多くの水が通潤橋へと流れていきます。あるいは、農閑期（のうかんき）といって、冬場の水を必要としない時に困ります。とちゅうで水量を調整する必要があります。それが次の写真です。

<写真 40：井手から眺めた取水口>



<写真 41：笹原川中より眺めた調整口>

この調整口で水量を調整するわけです。多く必要な田植えの時期などには大きく口を開かせ、ぎやくに農閑期には口を閉じて、笹原川からとった水は写真 39 のように、再度川へ放流するという仕組みです。



そして、この井手を伝わった水は、左のような円形分水というところで、8：2 に分けられて、8 割の水が通潤橋へとやってくるわけです（2 割は別の地区へ）。

<写真 42：円形分水>

郷土を開く

■「朝寝開き」とは

こう呼ばれる棚田があるのです。労働の一面が見てとれますね。

<写真 45：朝寝開き由来>



■通潤橋の現在

1960年に国の重要文化財に指定されました。また、2010年(平成22年)2月22日に「通潤用水と白糸台地の棚田景観」は、国から「重要文化的景観」に選定されました。

通潤橋は老朽化も加わり、今では、観光用放水とメンテナンスで放水される位です。ただ、用水路は現在も使われており、すぐ横に水を落とす込む施設を作って、それにて白糸台地へ水を送っています。



<写真 46：通潤橋北側の水だめ>

なお、水は橋を 10.11 秒で渡ります。

■なお、建設のための藩からの借金は、当然「水」を利用する人々が米で支払っていくということになります。水は今も同じく有料なのです。

棚田のヒミツ

11. どんな仕事ぶりだった？

当時の人々は、当然、農家の人たちが協力して、橋の建設にあたるわけです。では、どんな仕事ぶりだったのでしょうか。

時の上益城の郡代、中村恕齋は、通潤橋の視察をして日記にこう書いているのだそうです。

「まことに天上のにじのように見え、人が造ったようには見えず、鬼が造ったようである」と。

ところで、「朝寝開き」という棚田がありますが、そこには左のような案内板が立っています。わかりやすいように書き直してみました。

<資料 3：朝寝開き由来>

「朝寝開き 由来」 1852年、時の矢部手永、惣庄屋布田保之助は、水不足に悩む白糸台地農民のつらさを救うべく、通潤橋をかける事業に着手し、やっとのことで、1854年8月、1年8ヶ月の短期間に完成させた。このため、工事の人に対してもきびしく、作業は日の出と共に開始されたので、これにおくれる者も少なくなかった。これらの者に対する朝寝のバツとして居残りを命じ、特別にここの開田作業に当たらせた。こうして開かれたのがこの水田であるという。以来ここを「朝寝開き」と読んでいる。(白一地域づくり推進会)

この資料からどんなことがわかりますか。まとめましょう。

きびしい作業ではあったかもしれませんが、そこには白糸台地の人々の願いがあったのです。そして、土木や水利事業にたけた布田保之助という惣庄屋、さらには石工の集団などの協力があって巨大な橋が完成していったわけです。

郷土を開く

■通潤橋建造にあたっては、のべ27000人が動員されたと言われていいます。使われた石材は約6000個だそうです。

■かんがいとは、田畑に水を引いて（通して）、土地を水で潤す（うるおす）ことです。まさしく「通潤橋」ですね。

■「町」とは、面積の単位で、
1町=9917㎡、約1万㎡となり、
約1ヘクタールとなります。

以下のページで自動換算ができます。「WEB便利ツール」

http://kujirahand.com/web-tools/unit_convert.php?m=menseki

■熊本県には、江戸時代の末期に2つの大きな新田開発がありました。1つは今回学習した通潤橋等による棚田の開発です。そして、もう1つは海、八代干拓でした。こちらも手永たる鹿子木量平が開発していたものです。時期も似ていて、その後、神社に祀られたという点でも布田保之助と似ています。機会があったら、こちらも調べてみるといいですね。

<写真47：文政神社>



棚田のヒミツ

12. 通潤用水で暮らしはどうなったの？

新聞記事は読みましたか。通潤用水が世界でみとめられ、「かんがい施設遺産」となりました。

さて、この通潤用水で白糸台地の人々の生活はよくなったのでしょうか。

山都町教育委員会の大津山さんに話をうかがいました。次ページの資料をいただきました。古田（こた）とは、用水ができる前の田をいいます。わき水とか、雨水でつくっていたころの古い田です。新田（しんた）とは、用水によって開かれた水田を指します。

また、下の表は、用水完成前（1826年）の田畑と用水完成後（1882年）のそれとの面積を比べたものです。これらの資料から、暮らしはどうなったといえますか。なお、田とはもちろん「棚田」を指します<表1：完成前後の田畑面積>

	文政9年（江戸） 1826年	明治15年 1882年
白糸台地全田合計	約47町（ha）	約138町（ha）
白糸台地全畑合計	約63町（ha）	約58町（ha）



「2000年時点で、用水路で田をつくらしている農家は2182戸で118ha、2012年では107haの面積になっているそうだよ。」

ここまで、皆さんと一緒に、山都町の通潤用水のことについて学習してきました。他にも、熊本県内には多くの史跡が残されており、これから、そんなものにも目を向けて、先人の努力に感謝していきたいものですね。



<資料4：白糸台地北側の新田と古田＝赤は古田（通潤橋前からあった）・緑は新田（通潤橋の後）>

★ここまで「通潤橋」について、学習をしてきました。どんなことを学びましたか。ここに書いてみましょう。

次のページから、どれだけ理解できたかの評価問題を準備してみました。挑戦してみましょう。

「台地に広がる棚田」

() 小学校：名前

A (主体的態度) 以下の問に答えなさい。

【1】 下の写真で、通潤橋に関係の深いものを3つ選び、○を□の中に入れてなさい。

【2】 この銅像は誰で、何を持っているのですか。説明しなさい。

	
---	--

【3】 社会見学旅行ではどこに行きましたか。場所もしくは見てきたものを3つ書きなさい。

①	②	③
---	---	---

B（思考表現）以下の問に答えなさい。

【1】これは通潤用水の取水口である。どうやって水をとるのか、説明しなさい。



【2】以下の白糸台地の図や表を見て、通潤用水の完成で台地の生活がどうなったか、次の言葉を用いて、説明しなさい。「古田」「新田」「面積」

（赤は古田、緑は新田）



	文政9年(江戸)	通潤橋	明治15年
田合計	約47町 (ha)		約138町 (ha)
畑合計	約63町 (ha)		約58町 (ha)

C（知識技能）以下の写真を見て、以下の問に答えなさい。

ア	イ	ウ	エ
			

